

# 実況中継「土曜講座」

第13号 2026年3月10日発行

市川学園1月24日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール

富川 光先生

## 生物分類学教室へようこそ

～僕らが新種を見つける理由～  
広島大学教授

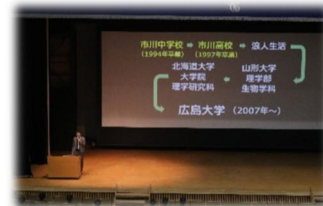


### 富川先生のご紹介

1997年3月 市川高等学校卒業  
2002年3月 山形大学理学部卒業  
2007年3月 北海道大学大学院理学研究科修了  
2022年10月 広島大学教育学部教授（～現在）

### 主な講義内容の紹介

第7回土曜講座は、富川先生による、生物分類学についてのお話でした。富川先生が在籍していらっしゃる広島大学のチームは、2025年に新種のヨコエビ「ヨリパンダメリタヨコエビ」を発見しました。ヨリパンダメリタヨコエビは、白黒のパンダ模様のヨコエビ（体長5mm～10mmほど）で、すでに発見されていたパンダメリタヨコエビよりも「より」パンダめいているということで、この名前が付けられたとのことでした。このように新種の生物に名前を付けるのが「生物分類学」なのだそうです。富川先生の語り口調もとても面白く、思わずクスリと笑ってしまったかわいらしい名前の新種ですが、新種の生物に名前を付けるまでの道のりは想像以上に長いものでした。まず生物を採集して観察とスケッチを行い、文献を精査してすべての既知種と区別できることを明らかにします。その後、遺伝子解析で系統縁関係を明らかにし、学術雑誌に掲載することでようやく新種名は有効名になります。生物分類学とは、自然界から「種」というユニットを見出し、それを科学の土台に乗せる重要な学問です。科学の土台に乗せることで、絶滅してしまうような種を研究対象にすることができるのです。言い方を変えると、見つけてあげないと絶滅してしまう種を救う重要な役割を担っているということになります。分類し、名づける行為の重要性を知る貴重な



機会となりました。そして最後に、富川先生から本校生徒への「夢をかなえるための3つのこと」というメッセージも頂きました。「好きなことを見つけましょう」「好きなことなら誰にも負けないと思ひ込みましょう」「友達を大事にしましょう」の3つです。本校の卒業生であり、学生時代の友人や教員との思い出もたくさん語ってくださった富川先生からたくさんのことを学んだ講座となりました。

### 受講レポートから

- ・人間は、動物を色々なところに使っていて必要不可欠になっているので、生物が絶滅してしまう前に新種を登録するスピードを上げて、生物が絶滅してしまうスピードを落としていくことが大切だと思った。そのためには、人間が登録された新種を知って、みんなで保護することが大切だと思った。自分も一回くらいは新種を見つけてみたいと感じた。全世界には少なくとも500万種もいるけれど、まだ150万～200万種しかいないので、これからもっとペースを上げて新種を見つけていくことが大切だと思った。  
(中1男子)
- ・私は生物の学習が好きで、「誰にも負けたくない!」という気持ちを持っていなかったことに気づき、夢のための原動力としてその気持ちを持ちたいと思った。昔、神の意志を知りたいがための研究が、神を否定することになってしまったということを知り、学問・研究と宗教は難しい関係にあるなあと感じた。新種を見つけることは、とても大変で珍しくてとてもお金をもらえると思っていたが、珍しくはなく、お金ももらえるわけでもないと感じて驚いた。  
(中2女子)
- ・今までとつきにくいと感じていた生物分野、おそろおそろの参加でしたが、とても分かりやすく、様々な豆知識を挟みつつ楽しくお話していただき、苦手意識を一気に覆されました!生物を分類する意義、新種を見つける必要性を学ぶことができ、生物の多様性を保全することの大切さを考えさせられました。私は現在授業で生物を学んでいますが、授業で教わったこと(学名など)とつながるようなお話がたくさんあり、知識としてのみインプットされていた生物分類を、先生の実体験や研究成果を交えて知ることができ、たいへん興味がありました!本当に楽しそうで、生物への愛にあふれた先生の姿がとても印象的で、好きなことを貫くことの大切さを感じました。素敵な講演をありがとうございました!  
(中3女子)
- ・かつては人為的にされていた分類が、進化論によって自然分類が変わっていったという経緯は初めて知り、とても興味深いと思いました。新種の発見方法について昔から気になっていたもので、この機会に知ることができてよかったです。雑誌に掲載された時点で新種名が有効になるなどのプロセスは予想外で驚きました。新種を発見する意義として「生物を科学の土台に載せる」という話はとても納得しました。また、新種の生物を早く見つけないと生物由来の技術を使えなくなってしまうという話は新しい視点でした。そういった面でも生物を保護することは大切なのだと初めて気づかされました。質問にもわかりやすく答えていただきうれしかったです。ありがとうございました。  
(高1男子)
- ・一番印象に残ったことは、新種発見の意義についての内容です。新種を見つけ、生物多様性の保全に向けた努力をすることで、人類が様々な種からアオカビが作るペニシリンのような色々な利益を享受できるということだと理解できました。先生のお話は大変面白く、ずっと飽きずに聞くことができました。新種発見の研究は予算がつきにくいのでは?と思ったのですが、社会的意義も大きいことを知ることができてよかったです。  
(高2女子)



(文責：野地 亜由美 先生)